



ポート管理(穿刺) NO.1

ポート穿刺の方法について説明します

必要物品

- ポート針
- 生食シリンジ2本
- ヘキザックAL1%
- Aプラグ
- ヘパロック100単位
- 投与する薬剤
- Cカニューラ (5個)
- アルコール綿
- インジェクションパット (絆創膏)

手順

※石鹸で手を洗い、準備物品を整えてから始めましょう!



①ポート針にAプラグをつけます
②生食シリンジにCカニューラをつけます



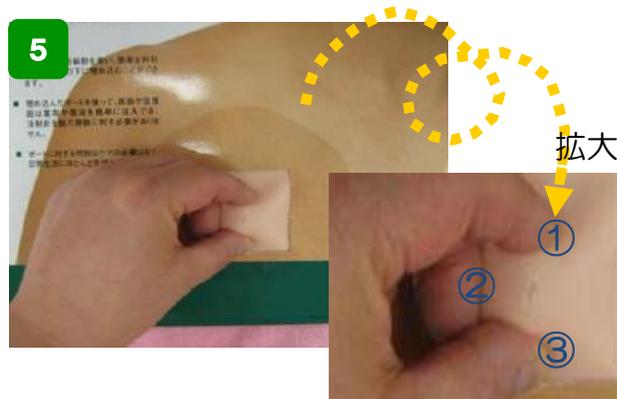
①のAプラグをアルコール綿で消毒してから、②を接続し、生食で満たしエア抜きをします



アルコール綿で穿刺部位を拭き、皮脂の汚れを落とします。そのあとに、ヘキザックAL1%綿棒で穿刺部位を円を描くように、内側から外側に向かって消毒します(2本使用し2回)



穿刺部を消毒した綿棒で利き手でない側の親指、人さし指、中指の3本の指を消毒します



写真の様に①②③の3点でポートを固定するように押さえます



コツンと当たるまで、垂直にまっすぐ穿刺します



シリンジを引いて血液の逆流を確認し、血液を戻します

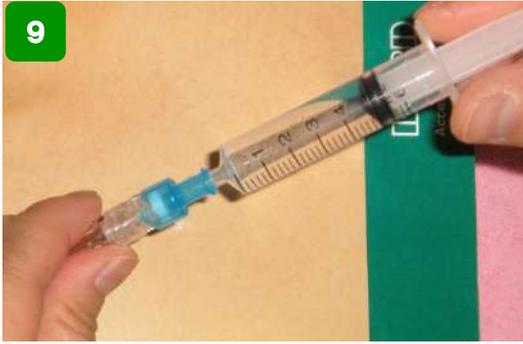


生食シリンジから薬剤のシリンジに付けかえます





ポート管理(穿刺) NO.2



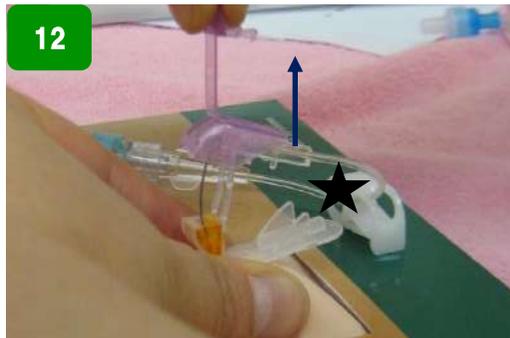
9 ゆっくりと押して薬剤の注入を行います。薬剤を注入する速度は薬剤によって異なるので、必ず確認してください



10 ※薬剤注入が終了したら、新しい生食シリンジやヘパロックに替え注入を行います。ポートの種類によって方法が異なるため説明書を参考にポートに合った方法を看護師と確認しましょう



11 利き手ではない側の親指と人差し指でポート針の翼を押さえます



12 利き手で★をつまみ、まっすぐ上に持ち上げます。カチッとロックして針が収納されます



13 アルコール綿で押さえて、止血を確認します



14 インジェクションパットを貼ります

※各薬剤の溶解方法等の詳細はお渡しした「ホームインフュージョンマニュアル」をご参照ください

日々の管理のポイント

- ▶ 穿刺部の皮膚の状態を観察しましょう。
赤くなったり腫れているなど、異常があれば病院へ連絡しましょう。
- ▶ 穿刺時に血液の逆流がない場合は、生食でフラッシュ（ゆっくり押し）してから、再度試みると引けることが多いです。
フラッシュしても引けない場合は、いったん抜いて、再度刺し直します。フラッシュ時に抵抗がある場合は、中断して、病院に連絡して受診してください。
- ▶ 外箱を含めてすべての物品は医療廃棄物として扱います。外来受診時に持参し病院で廃棄します。針、注射器、バイアルは針捨て箱（廃棄用の専用容器）に入れて廃棄します。

何かお困りのことがございましたら、かかりつけ医か当院外来にご相談下さい。

長野県立こども病院在宅支援看護チーム

作成:2019. 3. 1